

【法人本部事務局】

全体を通しての達成報告

1. 障がい者就労支援事業の安定稼動をバックアップ

店舗経営面として、原価率計算や売上げ商品分析、またSNS等の広報等のバックアップを行ったが、売上げは伸び悩み課題を残した。

2. 人事制度改革と人財育成

①人事制度の構築と職員周知

上期は制度構築を早期に完成させた後、全職員に向けて制度説明会を全8回開催し、職員の周知を図った。下期は新制度の仮運用を実施し、次年度の本格導入に備えた。

②研修制度の充実

従来の階層別研修に加え、グループ内の専門学校と連携し介護職員実務者研修の実習施設として実習生を受け入れるとともに、職員を講師として派遣した。

3. 介護現場のICT化とロボット導入の推進

①介護現場のICT化

特養三和愛宕の園（110床）において、タブレット端末を利用した介護記録システムを導入した。職員の負担軽減や業務の効率化、ペーパーレス化と情報共有の強化を図った。

②ロボット導入の推進

施設浴室のリフト導入を4ヶ所実施し、職員と利用者の負担軽減を図った。特養の一部ユニットで補助金を活用し、夜間の睡眠状態をモニターするセンサーを導入した。

4. 新規事業の企画推進

①高齢者福祉事業

上越市地域包括支援センターの再編と妙高市介護予防・生活支援サービス事業（閉じこもり予防通所サービス）に応募し選定を受ける。

②障がい福祉事業

農福連携を中心に上越市と協議を重ねるが、次年度は単発の委託事業となる予定。

次年度への繰越内容・改善内容

1. 人事制度改革と人財育成

新人事制度は次年度より本格導入となるため、スムーズな制度運用のための準備を進めていく。人財育成面としては、eラーニング等の新たな取り組みを含めた充実化を図っていく。

2. 新規事業の企画推進

第7期介護保険事業計画に基づく施設整備についての情報収集並びに計画土地の準備を進めていく。また、障がい福祉事業としても引き続き行政提案を行っていく。

【特別養護老人ホーム三和愛宕の園】

全体を通しての達成報告

- ・基本方針の浸透をはかり、同じ目標を持つ
まずは無事に新規施設の立ち上げができた点では一つのクリアはできた。ただ、施設としての方針であったり、理念の浸透がはかられていない点については、まだ今後も検討していかなければならない所である。職員が同じ目標を見て一致団結できるように取り組んでいく。
- ・福祉施設職員としての専門的能力を高める
この点については職員の知識・技術という点でまだまだ高めるといふ点まではいきついていない所である。ただ、ある程度新規に入居者を受入れその中で、ケアを提供する基礎は築けたと思っている。
今後も職員の個々の力の向上をはかっていく。
- ・地域に出ていき、地域との繋がりを強める
この1年間で地域の方と交流する基礎は築くことができたと思う。地域行事への参加により顔を出す事で、地域への認知も進んだように思う。今後も継続すべき内容ではあるが、まずは1歩達成とってよいと思う。

次年度への繰越内容・改善内容

職員の考え方の浸透に関しては継続して続けていかなければならない点である。ただ、職員全体で1つの目標をクリアすることで施設全体としてまとまりを作る事にもつながる事から、全体で1つの課題を見つけて取り組んでいきたい。

また、職員の知識・技術を高める為にも自分たちのケアに根拠をきちんと押さえていく必要がある。個々の知識の向上を目指し取り組みを行っていく。

昨年度よりシステムの導入等で業務の削減を目指してきているが、働きやすい職場環境づくりが必要と考え、勤務の仕方の見直し、業務の見直し、記録システムの深化をはかっていくことを目指す。また職員同士のつながりを作る取り組みなども検討する。

【グループホーム三和愛宕の園】

全体を通しての達成報告

- 1) 地域との関わりと交流を通し、地域との連携を深めます。
 - ・地域の行事に参加し交流を持つことで顔見知りの関係作りができた。
感謝祭を開催することができ地域、家族の皆様の参加により連携を深めることができた。
回覧版に広報誌を発行しグループホームを身近に感じて頂けるようになった。

- 2) 入居者個々の状況に合った自立に向けた支援を目指します。
 - ・入居者の希望や要望を聞きながらその人らしい生活が送れるように個別ケアに合ったサービスの提供に努めた。

- 3) 福祉の専門職として職員個々の資質の向上に努めます。
 - ・定期的な職員会議の中、意見交換の時間をもち入居者の生活の質の向上に努めた。
法人内グループホーム施設交換研修に参加し職員間のスキルアップになった。

次年度への繰越内容・改善内容

- 1、地域と交流を通し、地域との連携深めます

- 2、入居者の希望に添ったホーム運営を目指します。

- 3、認知症ケアの専門職として資質の向上に努めます。

【デイサービスセンター三和愛宕の園】

全体を通しての達成報告

管理者が変わり、新体制での1年であった。

・重点目標における達成報告

現代のデイサービスの役割・必要性について、サービスの質・ご家族からの期待信頼・選択性という専門性を高く評価されるものとなってきたことを感じる1年だった。

その中で、あらゆる疾病・障害等があるご利用者がいかに安心して居心地良く過ごせるかを常に職員間で検討し、方向性を定めることができた。

また、ボランティアの充実を図り、例年より多く外部の方々の力を借りてデイサービスを盛り上げ、地域に出ていく事で我がデイサービスを認知していただく場を設けることが出来た。

・実績と運営について

こまめなお便り・空き情報で積極的に呼びかけを行っていった。達成状況は悪いものではなく、全職員のチームワークで達成してきたものであった。

3月下旬にインフルエンザの集団感染により、ご利用者・ご家族・他機関・法人に多大なる迷惑をかけてしまった。この事態をデイサービスの今後の1つの教訓として忘れず対応していく。

・加算について

8月より個別機能訓練加算の算定により、PTが入職した事は事業所にとって大きな変化となった。機能訓練に関して専門的な視点からの判断・評価は相談・助言をする中で、在宅生活において重要なポイントとなる事を感じた。

10月からは認知症加算の算定を行った。

2つの新たな加算により動きが変わった部分が大きかったが、職員の連携・話し合い・理解を得ながら対応していくことが出来た。

次年度への繰越内容・改善内容

- ・介護報酬の改定により、2018年4月よりサービス区分の時間帯の説明・同意を再度確認を行った。その結果、これまでよりも長い区分でのサービスを希望されるご利用者多かったため、次年度はそれに対応するサービス提供・職員の動き等を改善・修正する事から開始する。
- ・次年度はケアマネの異動や包括の体制が変更となり、改めて挨拶まわりを行いながら、デイサービスのウリという所をお知らせしていく。
- ・職員の異動に伴う指導・育成の充実を目指す。
- ・新たな加算の算定（ADL維持加算）に向けた取り組み。

【小規模多機能型居宅介護 えどひがんの里】

全体を通しての達成報告

「重点目標に対して」

- ・できることが発揮できるよう寄り添う支援をしていく

できることを諦めないでやり続けられることができるよう、じっくりとその方の傍らに寄り添いやる気を引き出す声掛けや支援を行いました。

認知症があっても自分らしさを発揮しながら、不安に陥ることなく落ち着いてゆったりと過ごしていただけるよう、関わりや支援方法をスタッフ全員で模索しました。

自分の思いを言葉で表せない方にも、一日の中で嬉しいことや楽しいと思っただけけるような活動やコミュニケーションを働きかけました。

- ・プロとして自覚を持ち愛情と柔軟性のある支援をしていく

お一人おひとりのその時々ニーズに応えるために、必要なサービスを可能な限り提供しました。「まず先に見ることは、優先することは何か」をそれぞれが自覚しており、業務優先にならないよう努めてきました。困難事例や終末期の方の利用もある中、介護未経験の新人職員にとっては「大変」というイメージを持たれ、数か月で退職してしまうこともありました。

利用者ニーズに応えることが精一杯でOJTが中心で研修会という形での人材育成が不十分でした。

- ・地域の方とのつながりを広げ、地域に貢献していきます。

登録定員を25名→29名に変更し、より多くの地域に方にご利用頂ける体制をとりました。

地域ケア会議等で小規模多機能居宅介護の説明をさせていただいたりと普及活動を継続的に勧めています。地域で開催されたお花見や文化祭に参加させていただき、たくさんの方と交流することができました。声をかけてくださったり、手をひいて下さったりと地域の方の温かさを感じることができました。

地域の方が気軽に立ち寄れる、開かれた事業所づくりの一環として「ハーバリウム教室」を開催しました。幅広い世代の方がご参加くださいました。

- ・その他

登録定員はほぼ満員で目標の登録者数を達成することができ、多くの地域の方からご利用いただきました。

次年度への繰越内容・改善内容

- ・えどひがんの里のマニュアルを整備しケアの標準化、効率化を図ります。
- ・忙しい業務の中でも職員がやりがいを持って働ける人材育成の仕組みを整備します。
- ・地域で暮らしていることが実感できるような支援を検討、実践していきます。

【中郷地域包括支援センター】

全体を通しての達成報告

1. 実態把握

昨年度でほぼ一巡することができたので、今年度は当初から65歳の新規を主に個別訪問を行った。年度末を迎えて、最終的には実態把握以外の案件などで時間を割くことが多く、昨年度に比べ訪問件数は伸びなかった。

認知症や身体の衰えにより自立した生活が困難になった高齢者への支援では地域の関係機関、関係者との連携を図ることで対応することができた。

2. 地域ケア会議

開催のテーマとしては、地域の魅力を再認識することを取り上げた。地域の強みを地域課題に対してどのように活用していくかを話し合った。少子高齢化と人口減少のもとでの話し合いとなった。どのような助け合いが必要なのか、中郷区野実態を知るとともに地域にはボランティアとして活動している人が多く、地域の健康増進活動にも貢献していることを知った。

3. 介護予防ケアマネジメント

新総合事業のもと、委託先の居宅介護支援事業所へはケアプランの適正化を目的に随時、作成指導を行なった。

4. 権利擁護

民生委員からの相談を受け、戸別訪問を行うなどし日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用支援を行った。高齢者虐待に関しては、区相互事務所と随時、コア会議を開催し連携を図ることができた。虐待が疑われるケースとして個別訪問を行うことができた。

5. 転倒予防・認知症予防に関する地域への啓発活動を実施する。

実態把握等の個別訪問の際には、転倒予防や認知症予防に関する冊子を配布するなどし、啓発活動を行なった。

次年度への繰越内容・改善内容

【地域包括ケアシステムの構築】

個別訪問で高齢者のニーズを把握し、地域ケア会議では地域の関係者の顔の見える関係作りを行う。

【権利擁護】

民生委員などから高齢者世帯の情報を収集し、認知症高齢者の権利や人権が侵されていないか把握に努め、必要であれば市や総合事務所の担当課と連携して解決を図る。

【認知症高齢者やその家族を地域の中で支える仕組み】

認知症高齢者を地域の中で支える見守りの仕組み（ネットワーク）を構築する。

【小規模多機能型居宅介護 上吉野白鳥の里】

全体を通しての達成報告

【利用者のできることを引き出し、思いに沿った介護を提供します】

在宅介護が安心して継続できるように本人の思いを尊重しました。

本人のできる事を引き出し、継続できるように声かけし応援してきました。

看取り対応では本人・家族が安心できるように話を傾聴し不安なく看取りができるように支援しました。在宅での看取りケアが少なくなっています、職員も在宅での看取りを学ぶことができました。

【寄り添い思いやりのある生活を提供します】

利用者と一緒に座ることを心がけました。家族のこと・心配なことなど話しをお聞きし気持ちを受け止めることができましたと思います。

ヘルパーの調理では本人の好きなものや季節にちなんだ料理や郷土料理を提供し喜ばれました。

【小規模多機能サービスの特徴を活かし、本人・家族や地域の皆様が利用しやすい環境づくりの取り組みを行います】

利用者が在宅で安心して暮らしていけるように固定した時間にとらわれず、利用の状況に合わせてサービスを提供しました。

包括支援センター主催の研修に参加し、他居宅介護事業所との情報交換をし利用方法を説明することもできました

次年度への繰越内容・改善内容

- ・重度の方の利用がなく職員の介護技術が向上していません。介護技術の研修会を行い専門性を高め、質の高いケアを提供したいです。
- ・安定な経営を目指すために登録定員の確保に努めます。
- ・地域のとの関わりを続けるために、行事の参加や社会資源の活用していきたいです。

【特別養護老人ホーム上吉野愛宕の園】

全体を通しての達成報告

1. 入居者の「食の楽しみ」をチームケアで実現します

生活の一番の楽しみである食事に焦点を当て、入居者一人ひとりの「食の楽しみ」について、食事の内容、提供方法、喫食環境等、食に関わる全てにおいて職域毎の専門性を活かしたチームで、ユニットと連携して支援して参りました。食事に関わる食事介護、盛付、食事の姿勢・動作、口腔ケア等の研修を実施。また外部研修にも参加。毎月の会議の課題として取組み状況を確認いたしました。またソフト食の方を対象に、見ため、食感を考慮し職員手作りの行事も実施できました。厨房と連携しクックサーブによる食事の提供。ユニットによっては、食事用器を使い分けたり、器を新たに購入。献立以外にもう1品料理を提供したり、季節の果物、食材、手作りおやつ、おやつバイキングの提供ができました。夕方からの居酒屋を開催。ラーメンも提供できました。見ためにも美味しく楽しい食事の時間と環境を、職員一人ひとりが意識して関わる事ができました。

日々の活動として今年度も、平日の集団体操、カラオケ、手芸クラブ、映画鑑賞、足湯、転倒予防教室と参加型の余暇活動を実施いたしました。

地域交流では、上吉野町内会の防災訓練、敬老会、クリーン作戦、運動会に参加させていただきました。敬老会には入居者も参加して楽しいひと時を過ごしました。保倉保育園は七夕交流会・クリスマス会。保倉小学校は6年生の地域学習での交流、元気祭見学。直江津東中学校は上吉野愛宕白鳥園祭のブラスバンド演奏で交流をさせていただきました。

奉仕活動も2年目を向かえ、6月と9月に町内のクリーン作戦を行いました。

今年は開設10周年にあたり、中庭にコブシを記念樹として植樹。植樹のセレモニーでは、鯛の蒸菓子をお一人おひとりに提供。10年の歩みをパネルに作成、展示いたしました。外来駐車場脇には入居者・家族が楽しめるよう花壇を設置いたしました。

次年度への繰越内容・改善内容

職域毎で連携し専門性を活かし、安心な暮らしへの支援を行なっていきます。次年度は、食とのつながりがある排泄に焦点を絞り、チームで支援していきたいと考えます。入居者に暮らしを継続していただくための支援に向け、確認をしながら意識的に関わられるよう取組みます。また整容、環境整備については日常的に意識して取組めるよう考えております。地域交流では、交流の場を増やし、より強固な地域の皆様との関係づくりを目指し参加するとともに、引続き奉仕活動を行っていきます。

【上越あたご居宅介護支援事業所上吉野】

全体を通しての達成報告

1. 利用者や家族の思いを大切にし、自立・自律した在宅生活を送れるように、居宅支援を行います。
 - ・利用者家族の話を傾聴し、ケアマネジメントの一連の業務を丁寧に行い、住み慣れた地域での生活が継続できるように努めた。
 - ・多様なニーズに応えられるように、地域の情報収集を行い事業内共有に努め、利用者や家族提供を行うことができた。
2. 地域に必要とされる事業所としての評価が得られるよう、関係機関や地域の方々との連携や交流を図り、地域に根差した事業所を目指します。
 - ・積極的に困難事例を受け入れ、ケア会議等にも参加し、各地域の包括支援センターや行政関係者と連携を図ることができた。
 - ・地域ケア会議や、地域の行事に参加し、地域の方々との顔の見える関係づくりに努めた。
 - ・カンファレンス等での意見交換、個別面談等を通し、医療従事者や主治医との連携に努めた。
3. 研修を励行し介護支援専門員としての専門性を高め、より質の高いケアマネジメントを提供できるように努めます。
 - ・各ケアマネジャーのスキルに合わせた研修に参加し、レベルアップにつなげることができた。
 - ・特定事業所としての運営を行い、各自のスキルアップや課題解決に向けて研修を行った。

次年度への繰越内容・改善内容

- ・地域でその人らしい生活を送れるように、質の高いケアマネジメントを展開する。
- ・地域の課題を共有し、より良い地域づくりに寄与できるように、引き続き関係機関地域と連携強化をしていく。また、主治医とも積極的に連携を図り、住み慣れた地域での生活が継続でき着る体制を整えていく。
- ・利用者の多様なニーズに応えられるよう、内部・外部研修を充実させ、事業所全体の資質向上を図る。

【ケアハウス新井】

全体を通しての達成報告

1. 専門性の高い個別支援の提供：入居者の思いに寄り添い個別性を尊重し、接遇技術を向上させることで、安心して地域生活が営めるよう、入居者主体の事業所運営を行う。

入居者が張り合いをもって穏やかに、その人らしく生活を送っていただけるよう、支援を行った。居室を訪問しての個別面談や、生活の場面を活用しての会話等を通じて、入居者のその時々のお思いを傾聴し、生活課題の解決に向かう為の自己選択・自己決定を促す関わりを日々提供させていただいた。また、家族や各関係機関等と緊密な連携協力関係を構築し、入居者にとって、本当に良い生活は何かを協議検討し、その実現のための支援を行った。

2. 快適な生活が送れる事業所作り：入居者各自の生活様式や季節感に配慮し、安全で快適な生活が送れる環境作りを促進する。

入居者が快適に毎日の生活を送っていただけるよう、健康状態等に適した食事形態の検討や食堂内配席の配慮を行った。また、季節感を身近に感じていただける行事や季節応じた食事会の開催等を実施した他、事業所内部に季節に応じた装飾を行った。

施設内各所における設備を定期的に点検し、生活障壁の除去や破損箇所の早期修繕・冬期間の除雪や外部通路の凍結防止等により、日常生活において入居者が安心安全に過ごしていただけるよう、事故防止に努めた。

3. 地域連携の推進：地域住民や各関係機関との連携関係を深めることで、地域に対して開かれた事業所づくりを目指す。

新井複合施設全体として、レクリエーションに関するボランティアを積極的に受け入れた。防災訓練においては、高柳区長・高柳地区自警消防団・新井消防署等の立会いをいただきながら訓練を実施し、災害時における地域との連携体制強化を図った。

新井中央小学校の総合学習の交流活動や新井中学校生徒の体験活動を受け入れたり、新井中央小学校文化祭への入居者作品出展等の促しを行うなど、積極的な関わりを持つ事ができた。夏季には施設主催の夏祭りを開催したと同時に、高柳地区主催の納涼祭に参加し、地域住民との交流を深めた。

年間を通じて、居宅介護支援事業所を初めとする各関係機関と入居者支援に関して緊密な連携を行った他、パンフレット等を配布して、継続的な広報活動に努めた。

けいなん病院様を講師に迎えての「出前講座」により、入居者・職員の意識向上と知識の定着につながったと同時に、改めての連携強化につなげる事ができた。

次年度への繰越内容・改善内容

1. 個別支援については、今後もニーズ把握とアセスメント技術を高めていく。多様な生活背景を持たれる入居者に、適切なサービス提供ができるよう、職員が福祉の専門性と熱意を持って業務に取り組めるように意識化を継続していく。

2. 入居者が安心安全に、平穏な暮らしを送っていただけるよう、事業所内の設えの工夫や環境整備による清潔保持・季節感の感じられる催し物等を継続的に開催して行く。

3. 地域との連携協力体制、特に高柳地区との連携について、今現在の良好な関係性を継続していく。地域行事への継続参加を行う他、小中学校と連携した取り組み継続実施していく。

【デイサービスセンター新井】

全体を通しての達成報告

1. ご利用者の自己実現を目指し、個別に合わせた対応を行ないます。
 - ・ご利用者の体調や身体・精神状況について、ご家族や介護支援専門員に対する正確な情報伝達を心掛け、安心できるサービスの基盤づくりを行った。
 - ・個々の身体・精神状況を観察し、本人のご希望を含めたケアプランの作成に努めたが、サービスの提供に至らなかった点が多かった。
2. ニーズに基づいた新たなサービスを創造し、選ばれる事業所を目指します。
 - ・ご利用者からのご意見を参考に、プログラムやサービス内容を検討した。障がい者の受け入れ（生活介護）に加え、障がい児を対象とするサービス（日中一時支援）の受け入れ継続した。困難事例の受け入れや送迎範囲の拡大を実施し、ご利用人数は増えたが、今後もニーズの把握と積極的な受け入れを実施していきたい。
3. 地域福祉推進のため、行政や関係機関、地域資源と連携して事業を運営します。
 - ・けいなん総合病院より講師を派遣していただき、「出前講習会（全2回）」を実施した。
 - ・各種ボランティアや行事を地域にご案内し、内容によっては地域の方々にご参加いただくことができた。また、新井中央小学校との交流にも取り組み、充実した活動を実施することができた。
4. 高齢・障がいの一体的な福祉サービスを提供し、サービスの質の向上を図ります。
 - ・高齢、障がい者（児）の一体的なサービスを提供しサービスの幅が広がったが、全体的なサービスの質は維持できていると考える。

次年度への繰越内容・改善内容

- ・高齢者への介護が主体ではあるが、障がいのある方を受け入れを高めていく必要がある。また、選ばれる事業所となるため、施設の魅力を発信しまた、断らない姿勢を持つことが必要である。ご利用者ご自身の生活リズムに合わせた柔軟な対応、ご利用者への接遇についても、継続的に力を入れていきたい。

【ヘルパーステーション新井】

全体を通しての達成報告

1. 様々な生活ニーズを持つ利用者が安心して地域在宅生活を継続できるよう、良質な支援を提供する。

利用者・家族の生活ニーズの把握に努めると共に、居宅等と緊密な連携協力関係を継続する事で、利用者が安心して地域在宅生活を送れるよう、利用者・家族の思いに寄り添った支援を心掛けた。支援の中で得られた情報を、都度居宅等と情報共有を行った。

2. 介護保険ならびに障害福祉サービス・保険外サービス等を丁寧に実践することにより、利用者満足度を高め、地域の福祉力向上に寄与する。

介護保険サービスと共に、障害をおもちの方に対する居宅介護サービスの提供を行った。様々な生活課題をおもちの利用者の多様なニーズにお応え出来るよう、職員間の情報共有と技術向上に努めた。それぞれのサービス内容について、利用者・家族に丁寧な説明を心掛ける事で、サービスに対する満足度向上を目指した。訪問介護の立場で関わらせていただく事で、利用者の地域在宅生活継続を支援し、結果的に妙高市の地域福祉力の向上に貢献できたと思う。

3. 法人内外研修会等に積極的に参加し、専門職としての技能資質向上に努める。

新井複合施設内研修及び法人内研修に可能な限り参加し、介護技術や認知症理解・接遇等について学習の機会をもった。業務調整の都合上、法人外部研修に対しては、参加できる機会が少なかった。日常業務の中で得られた気付きや疑問を、職員間で検討する事により、支援の質の向上と職員間での意思統一を図った。職員間では経験年数に長短の差があるが、共通認識として浸透しつつある。

次年度への繰越内容・改善内容

1. 居宅等関係機関との情報交換をより緊密に行い、今後も良好な関係を継続していきたい。訪問介護に携わる福祉専門職としての自覚と責任を持って利用者・家族・地域の為に前向きに仕事に取り組んでいきたい。

2. 多種多様なニーズに対し、きめ細かく対応出来るよう、質の高い訪問介護サービスの提供を適切かつ丁寧に提供したい。その事により、多くの方々の地域在宅生活が可能となるように努めたい。

3. 接遇や調理技術等、訪問介護に必要とされる技術向上を図るために、法人内外で実施される研修に対し、積極的に参加できる体制を整えたい。事業所全体のサービスの質の維持・向上に努め、地域に貢献できる事業所運営を目指したい。

【グループホーム新井】

全体を通しての達成報告

1. 入居者個人の思い・要望を尊重し、その方らしい生活を送れる様支援する。
 - ・日々の生活の中の何気ない入居者の言葉や態度を観察し、その方のその時を大切にしていだけるよう取り組みました。また、個々の選択を生かし潤いある生活を送れるよう、外出の支援や外食、その方の好まれる作業の機会を持つ事ができました。
2. 地域の方や家族との信頼関係を深め、社会との繋がりを保てるよう努める。
 - ・地域行事への参加（お祭り、防災訓練、さいの神等）を行ない、地域へグループホームの存在を発信する事ができた。
新井中学校、新井中央小学校との交流の機会が持て、運動会や文化祭への参加をし事業所見学に来られた際には質問交換をし楽しい時間を過ごす機会となった。
 - ・敬老会食事会やサービス担当者会議へ家族より参加していただき、施設内の様子や食事風景など関わりを深める場となった。
3. 認知症事業所の専門職としての自覚を持ち、介護技術の習得、資質の向上に努めます。
 - ・研修会に参加後他職員との知識、情報の共有として研修報告会を行ないケアに生かす事ができた。
 - ・職員不足期間があり施設外の研修参加の機会がもてなかった。
 - ・接遇マナー全般の見直す機会を持つ事が出来たが、根本的な改善とまでは出来なかった。

次年度への繰越内容・改善内容

- ・安心・安全な生活を送り、個々の希望・要望に沿った支援を行う。
- ・地域・家族との関わり日頃からの信頼関係作り。
- ・認知症ケアの専門職として自覚を持つ。

【上越あたご居宅介護支援事業所新井】

全体を通しての達成報告

1、障がいや疾病があっても、それぞれが願っている生活の実現のために、本人の思いを大切に、自己選択・自己決定を原則とし、福祉サービスだけでなく地域のインフォーマルなサービスを活用し、地域での生活が安全で安心したものとなるように支援します。

・本人や家族の意向を確認し、意向の実現に向けて支援する事ができた。だが本人や家族の思いの相違があった際等に、専門的立場としての意見や支援を行う際に情報不足や知識の不足がある。インフォーマルなサービスに対しての活用についても、情報収集の不足もあり、活用できていない。

2、地域の行事への参加を行うと共に、福祉ニーズを把握し社会資源の開発も視野に入れ、地域に密着した事業所運営を図ります。

・地域の茶の間などを見学する事はできたが、社会資源の開発まで目を向ける事ができなかった。

3、利用者に適切なアドバイスや助言が出来るよう情報の収集や研修に参加し、介護支援専門員、相談支援専門員としての資質の向上に努めます。

・研修に多く参加したり、各関係機関等に不明な点は確認を行う中で知識の向上に努めた。だが専門的知識が不足している所がある。

次年度への繰越内容・改善内容

・本人の思いを確認し、自己選択・自己決定を行う事ができるように情報を収集する。また適切なアドバイスができるように、介護支援専門員・相談支援専門員としての資質の向上に努め、地域での生活が、安全で安心したものとなるように支援する。

・次年度は介護保険制度・障害者総合支援法の改定にて制度を理解し、本人、家族に不安を与える事がないように支援する。

【デイサービスセンター大潟】

全体を通しての達成報告

1. 認知症を始めとする障害や疾病への理解を深め利用者個々のペースに合わせた時間の提供を実施いたします。

ご利用者一人ひとりのペースを大切にしようと思いがけましたが、職員主体になる場面（入浴等）が見られることが多くあった。その都度、ミーティング等で話し合いをしてきたが、なかなかペースを合わせるができなかった。

研修や日常のミーティングを通じて、職員間での理解向上に努めた。職員の経験年数の差によって、技量の違いがある事が散見される。利用者の思いに寄り添いニーズを把握（入浴、排泄、食事）する事ができた。また、本人の介助量や可能な能力を見ながら行えたと思う。また、必要に応じて、担当ケアマネへのアプローチも行えた。

2. 職員間の協力と連携並びに業務改善努力の実践を行ないます。

職員会議、ミーティング等で職員間の意見交換が出るようになり、チームで利用者に満足していただく事業所を目指すという意識が芽生えてきた。

次年度への繰越内容・改善内容

- ・利用者に満足していただけるデイサービスの構築。
- ・ご利用者個々にあった対応の強化。
- ・事業所の状況に応じた研修の実施。
- ・職員間における連携体制の強化。

【グループホーム大潟】

全体を通しての達成報告

1. 入居者の「できる事」ひき出し自分らしい生活が送れるよう支援します。
 - ・本人の出来ることを最大限に発揮していただくように、家事作業や創作活動への参加を勧め充実感、達成感を感じていただくように努めた。また、本人が日課として続けられるように支援をした。
 - ・入居者一人ひとりとの会話を大切に日常生活の中で、本人と向き合い関わりの時間を設けるように努めた。
2. 家族と信頼関係を築き入居者の生活を共に支えます。
 - ・家族へ本人の日常生活の様子を面会時や必要時は電話連絡でお伝えし本人の現状を理解していただけるように努めた。
 - ・家族の面会時や電話対応など職員の接遇マナーにも配慮を行なった。
 - ・広報誌を通して施設での様子や日々の暮らしぶりをお伝えした。
3. 専門職としてより良い介護の提供をめざし技術、知識の向上に努めます。
 - ・認知症の進行と共に本人からの思いや訴えが少なくなった分、日頃の様子や表情やしぐさを観察し個々の思いを理解しケアに反映するよう努めた。
 - ・国家資格の取得にも積極的にチャレンジしスキルアップに繋げた。
 - ・施設内外の研修参加により技術、知識の向上に努めた。

次年度への繰越内容・改善内容

繰越内容

- ・引き続き「自分らしい生活」の継続ができるように支援していく。
- ・個別介護留意事項の半年ごとの見直しを行ない、家族にも情報の共有ができる機会をつくる。

改善内容

- ・職員間の情報の共有化、ユニット全体で入居者を支えていく統一した支援を行う。
- ・入居者のほりのある生活を目指し、職員自身も仕事に対するモチベーションを上げる努力をする。

【小規模特別養護老人ホーム 大潟愛宕の園、短期入所施設 大潟愛宕の園】

全体を通しての達成報告

- ・24時間シートを深め活用することで、それぞれの「暮らし」からケアを振り返る

全ユニットで24時間シート、一覧表の作成。また作成から見直し・更新の流れが確立した。一覧表をユニット内で手の届く場所で保管することで形だけではなく、実際に活かせるものとして活用できている。概ね達成できた。

- ・地域との関わりを深める

地域のイベント(大潟かっぱ祭り)へ町内の一員として参加した。

大潟七夕絆祭り(福祉祭り)では、行政やまちづくり大潟に混じり企画段階より参加し、地域に対しての活動の発信を積極的におこなった。

運営推進会議では地域の方々に多く参加していただき、サービスの質、地域の中の施設のあり方について情報共有につとめた。

- ・家族との絆を深める

面会時の話しかけやケアプラン会議内での情報の共有につとめ、また忌憚のないご意見をいただく為に特養・短期共にご家族を対象にサービス満足度調査を実施し、公表を行なった。

- ・入居者、利用者それぞれが楽しめる活動をサポートする

入居者、利用者の本当にしたいことに目、耳を傾け希望参加型の活動を行なった。

特養に関してはクラブ活動の実施や、居室担当が本人や家族との相談のもと個別の外出やイベントを実施した。

次年度への繰越内容・改善内容

- ・地域や家族とのかかわりに関して継続、且つ今まで以上に積極的に行なっていく。

【うつぎの里】

全体を通しての達成報告

- ・在宅生活の継続ができるよう、利用者・家族のニーズに即したサービスを提供します。
身体の状態変化や認知症の進行状況、家族のライフイベントに合わせて、通い、宿泊、訪問を組み合わせ、在宅生活を継続できた。
特に、認知症の進行による状況変が多くあったが、スムーズな支援をおこなえた。
また、地域住民や公共機関、法人外事業所と連携し、徘徊に対する支援もおこなえた。
- ・ニーズに応えられる専門技術を身につけます。
外部研修の一環で、職員がおこなった自施設実習で、事業所全員で認知症について考える機会を設けることができた。
身体介助が少ない為、介護技術面の習得はできなかった。
- ・地域に対して、小規模多機能の認知度をあげます。
認知症カフェへの参加、地域行事や祭りへの参加を継続することで、運営会議にも参加の声を掛けてもらうことができた。
「あたご」の認識を持ってもらう事ができたが、小規模多機能型居宅介護の認知度をあげるまでには至っていない。

次年度への繰越内容・改善内容

- ・在宅生活の継続ができるよう、利用者・家族のニーズに即したサービスを提供します。
在宅生活を中心に支援が組めるように、今後も継続していく。
- ・ニーズに応えられる専門技術を身につけます。
介護技術を使う機会を増やすことで習得していく。
- ・地域に対して、小規模多機能の認知度をあげます。
区で行っているサロンや民生委員の集まりなどに積極的に足を運び、小規模多機能について・うつぎの里についての認知度をあげていく。

【小規模特別養護老人ホーム直江津愛宕の園】

全体を通しての達成報告

- ・入居者個々の課題（ニーズ）を把握し、暮らしを支える。

24時間シートを活用することで、入居者の今までの暮らしを把握することができました。

また家族にケアプラン会議に出席していただくことで家族の意向の確認と信頼関係を構築することができました。

ユニット会議の間では多職種連携を活かし、入居者個々の対応を話し合うことができ、状態の変化に応じたサービスの提供に繋げることができました。

- ・地域との交流を深め、地域に開かれた施設をめざす。

運営推進会議の間を通して、施設行事の発信ができました。また、委員の皆さんからは町内の現状や率直なご意見をいただくことができ、関係性を深めることが出来ました。

本年、防災相互協定を町内会と結び、町内会と災害訓練を実施いたしました。

「直江津愛宕の園祭り」には、近隣の方々の参加者も増えてきており、今後も地域の行事として定着するよう働きかけていきます。

次年度への繰越内容・改善内容

- ・入居者が最期まで安心して暮らしてけるよう、入居者一人ひとりの思いと課題の把握に努め、チームで入居者の暮らしを支えていきます。

【グループホームおたて】

全体を通しての達成報告

【重点目標】

- ・入居者一人ひとりの理解を深め、個々の能力を引き出しながら、活気ある生活の支援をする。

・日々の関わりの中で、入居者一人ひとりの気持ちや要望に応えられるよう、職員間で情報を共有し入居者の支援に繋げることができました。

日常生活の家事仕事等を通して、入居者個々が持っている能力を発揮する場面を多く持つよう心掛けました。また、職員が意見を出し合い、諦めない介護が出来たと思います。

次年度への繰越内容・改善内容

・入居者が安心して生活できるようまた、職員が笑顔で働きやすい環境を作っていきたいと思います。

・家族・地域の方々との信頼関係を密にし訪問しやすいグループホーム作りを心がけます。

・専門職としてのプライドを持ち、認知症の理解を深め入居者の対応にあたります。

【小規模多機能型居宅介護 居多の里】

全体を通しての達成報告

1. いつも笑顔で接する。
 - ・また来たいと思える施設作りをめざして、明るく過ごしやすい雰囲気になるよう努めました。
 - ・利用者一人ひとりの思いや希望を受け止め、それが叶えられるよう努めました。
2. 利用者一人ひとりにあった介護技術の習得
 - ・利用者にあった介護方法を行うため、カンファレンスの実施と申し送りの徹底を行いました。
 - ・定期的なモニタリングの実施で、状態の変化に対応した介護を実施するよう努めました。
3. 地域や家族との関わりを深める
 - ・直江津愛宕の園だよりを年に6回発行し地域に回覧しました。またそして直江津愛宕の園感謝祭ではたくさんの地域の方に来園していただきました。
 - ・送迎時や連絡ノートを利用し家族との関わりを深めることができました。また、年に6回居多新聞を発行し、ご家族や地域の方々に利用時の様子、事業所内の活動をお伝えすることが出来ました。

次年度への繰越内容・改善内容

- ・家族や地域と連携し、可能な限り住み慣れた自宅で暮らし続けるための支援を行います。
- ・季節ごとに家族や地域の方が参加できる行事を実施します。
- ・外部、内部研修や地域会議に参加する機会を増やします。

【小規模多機能型居宅介護 八千浦ひよりの里】

全体を通しての達成報告

ニーズを把握しご家族と連携をとり、在宅生活を支援します

送迎時等ご家族との会話の中で情報収集できるようにし、その情報を全職員で共有するように努めた。一人ひとりの対応、注意等を全職員の認識として持てるよう担当が中心になってまとめることができた。

利用者本人の思いと家族の思いが行き違いがあるときは傾聴しお互いの思いを伝えながら支援に努めた。

2 笑顔で過ごせる環境を提供します

職員、利用者ともに笑顔で安心して過ごしていただけるよう日々様子を把握し、異変がある時は早急に対応するよう心がけた。今年度は外出を多めに取り入れ、リフレッシュを図るようにした。

地域と関わりを深めていきます

恒例となった秋祭りの行事やボランティア行事に地域の方からも着ていただけるようになった。また、海岸清掃等に参加し地域の方から施設をアピールできているように感じる。

次年度への繰越内容・改善内容

【シャルールやちほ】

全体を通しての達成報告

1 個々の生活リズムを大切にし、安心して生活できるよう支援します

職員全員で声がかげやすいよう、こちらからのアプローチをしたり信頼関係が気付けるよう努力した。が今回苦情にも上がったが対応のミスや言葉がけで不快な思いをさせてしまった事があった。

食事の時間や入浴時間を個々の時間に合わせるようにすることが出来た。

2 楽しみを見つけその人らしい生活が出来るよう支援します

個々の生活を大事にし、その中で外出の行事や催し物に参加ししていただいた。

いろいろな思いを聴けるように声をかけたり、関わりあいを持つようにしたり、担当ケアマネと情報交換を行うようにした。

次年度への繰越内容・改善内容

- ・ 個々の生活リズムを大切にし、安心して生活できるようにする
- ・ 気持ちよく生活ができるようにする

【障がい者就労支援センターWITH】

全体を通しての達成報告

1 アセスメント方法を確立し、利用者個々に合った個別支援計画を作成する。

アセスメントが十分に出来ていないので、利用者個々に添った、個別支援計画が作成できているとは言い難い部分がある。29年度の下半期より、1週間ごとに、事業所内モニタリング会議を開催し、1週間ごとの変化の推移をみていくことと、個別支援計画や施設外計画への反映を開始しはじめた。また、個々の課題については、プランの提示のときだけではなく、頻回に課題確認を行い、常に利用者個人に問題意識をもってもらうように働きかけ、課題の克服に努めた。

2 個々の特性を理解し、それぞれに合った就労支援プログラムを提供する。

発達障がいの障がいの複雑・多様性を理解しないで、支援をすることがあり、利用者が困惑するような指導を行うことがあった。各個人にきちんと目を向け、特性を理解し、支援プログラムを遂行していく必要がある。

3 製造（麺・ジェラート）店舗の運営方法を確立する。

製造（麺・ジェラート）は、店舗内の販売・イベントでの販売（年8回）に参加した。法人内の行事の際に、ジェラートを販売した程度である。

4 施設外就労・施設外支援のプログラムを確立する。

施設外支援では、法人内の環境整備・清掃業務、調理補助業務等を行った。

施設外支援では、洗濯業務が追加となった。法人外では、JCVのダビング業務や内職作業を行うこととなり、プログラムは増加した。

5 本人の思いを反映できるよう、サービス等利用計画時におけるアセスメントを工夫する。

本人・家族の思いを十分に聞き、現在・未来の生活がイメージできるよう本人、家族とともに考え、サービス等利用計画を作成するように努めた。特に、困難事例の児童の増加、介護保険への移行、高齢の親と障害者の子の二人暮らし等、複雑で多様化する問題に直面することが増加した。関係機関等と連絡を密にとり、サービス利用だけでなく、学校生活や今後の生活についても考え、専門的な支援を行うことができていた。

次年度への繰越内容・改善内容

- ・個々の障害特性を理解するにあたり、各障害を十分に理解したうえで、多様化・複雑化した特性に職員全員が対応できるように努めていく。
- ・法人内の施設外就労先と本人の置かれている状況や就労状況を定期的に確認し、連携を深めていく。また、法人内の事業所より、障害理解をしてもらえるような取り組みをしていく。
- ・利用者の思いと就労アセスメントから、本人にあった仕事のマッチングができるような仕組みの構築を図っていくとともに、就労内定につながるように努めていく。
- ・利用者に、より多くの施設外実習の機会を提供するために、関係機関等と連携し、実習先の開拓を行う。直接的な実習先開拓だけでなく、実習先で、高い評価を頂けるように、指導に徹底に努める。
- ・就職内定者を一人でも多く出すとともに、職場適応支援の充実等、就職者ひとり一人に応じた職場定着支援を実施していく。